

目次（ 2026年度シラバス）

<大学院>

運動生理学特論	1
コーチング学特論Ⅲ（走・跳・投）	2
スポーツ科学特論	3
スポーツ運動学特論	5
スポーツ文化特論	6
スポーツ倫理学特論	8
身体活動情報分析学特論	9
スポーツバイオメカニクス特論	10
スポーツ科学研究演習Ⅰ	11
スポーツ科学研究演習Ⅰ	13
地域スポーツ特論	14
スポーツ心理学特論	15
スポーツ史特論	16
スポーツ科学研究方法論	18
コーチング学特論Ⅱ（集団種目）	20
スポーツ教育学特論	21
スポーツデータサイエンス特論	22
コーチング学特論Ⅰ（個人種目）	23
スポーツ科学研究演習Ⅱ	24
スポーツ科学研究演習Ⅱ	26
アダプテッドスポーツ学特論	27
スポーツ科学研究演習Ⅲ	28

科目コード	G30104				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	運動生理学特論				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実証的な知識を習得できる。また、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができる。

<授業の方法>

講義。授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

60分（Classroom内の動画を視聴）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造の理解、筋線維タイプと競技種目特性
3	筋力・筋パワー	筋収縮の様式、筋力に影響する要因とトレーニング効果
4	運動とエネルギー供給系	TCAサイクル、ATP-PC系・解糖系・酸化系
5	筋エネルギー代謝とトレーニング	各種トレーニングとエネルギー代謝
6	運動時の糖質・脂質・蛋白代謝	代謝とは、糖質・脂質・蛋白代謝の概要
7	運動とホルモン	筋肥大のメカニズム、筋肥大に影響する要因
8	運動と神経	ニューロンと興奮の伝導、運動単位の動員様式
9	運動と酸素摂取	呼吸の基礎概念、最大酸素摂取量、酸素借
10	無酸素性作業閾値（AT）	ATとは、ATを規定する因子、トレーニングとAT
11	体温と運動パフォーマンス	体温に影響する要因、運動と体温変化
12	スポーツと遺伝子	持久系能力に関連する遺伝子、スプリント・パワー系能力に関連する遺伝子
13	筋疲労の要因	筋機能の特性、遺伝の影響
14	トップアスリートの特性	呼吸循環機能、筋腱の構造と機能
15	試験、まとめ	本講義のまとめ
16		

科目コード	G30107				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	コーチング学特論Ⅲ（走・跳・投）				担当者名	品田 直宏／梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業では、スポーツ・コーチに求められる役割や責任について理解を深めるとともに、トレーニングの立案および実践に関する基本的な方法を学ぶ。また、走・跳・投種目におけるパフォーマンス構造を理解し、それに基づいたトレーニング計画の立案を行うとともに、その内容を発表・共有することで、理論と実践を結び付けた学習を展開する。

<授業の到達目標>

1. コーチングにおけるトレーニングの構成方法を理解し、その内容を適切に説明することができる。2. 走・跳・投種目におけるパフォーマンス構造を理解し、その特徴を説明することができる。3. パフォーマンス構造に基づきトレーニングを立案し、その内容を理論的に説明することができる。

<授業の方法>

本授業では、各回のテーマに基づき事前・事後の学習課題を設定し、それらを踏まえた双方向型の授業を実施する。授業内では、ディスカッションやグループワーク、課題に対するプレゼンテーション等を通して、主体的かつ協働的な学習を促す。また、Google Classroom をはじめとするICTを必要に応じて活用し、課題提示や資料共有、学習の振り返り等を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。具体的には、各回のテーマに基づいたディスカッションやグループワークを通して、学生同士の意見交換を行い、多角的な視点から理解を深める。また、課題に対するプレゼンテーションを実施し、自身の考えを整理・発信するとともに、他者からのフィードバックを受けることで学びを深化させる。さらに、トレーニング計画の立案および検討を行い、課題解決型学習（PBL）として主体的に学習に取り組む。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計90分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各回のテーマに関する資料の確認や課題への取り組みを通して、トレーニング理論やパフォーマンス構造に関する基礎知識を整理しておくこと。復習としては、授業内でのディスカッションやプレゼンテーションを踏まえ、自身の考えやトレーニング計画を見直し、改善点の整理および課題の再検討を行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、以下の内容を総合して行う。・受講態度・学習意欲：30％・課題（レポート・トレーニング計画）：30％・プレゼンテーション：40％受講態度・学習意欲については、授業への主体的な参加状況、ディスカッションやグループワークへの関与等を総合的に評価する。課題については、トレーニング理論の理解度、パフォーマンス構造の把握、および計画内容の妥当性・論理性を評価する。プレゼンテーションについては、内容の構成、論理性、表現力、発表態度、時間管理等の観点から評価する。フィードバックについては、プレゼンテーションに対しては授業内での講評や質疑応答を通して行い、課題についてはコメント等により改善点を具体的に提示することで、学習内容の深化を図る。

<教科書>

日本コーチング学会（2017） コーチング学への招待

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	コーチに求められる役割	コーチとは、コーチングの本質の理解
3	コーチング学の研究	コーチング学研究における研究事例
4	コーチングにおけるデータの活用	「走・跳・投」種目のデータの解釈
5	コーチングにおけるトレーニング実践	トレーニング循環モデルについて
6	コーチングに求められる専門知識（走）	「走」パフォーマンス構造の理解
7	コーチングに求められる専門知識（走）	「走」トレーニングの立案
8	コーチングに求められる専門知識（走）	「走」トレーニングの発表
9	コーチングに求められる専門知識（跳）	「跳」パフォーマンス構造の理解
10	コーチングに求められる専門知識（跳）	「跳」トレーニングの立案
11	コーチングに求められる専門知識（跳）	「跳」トレーニングの発表
12	コーチングに求められる専門知識（投）	「投」パフォーマンス構造の理解
13	コーチングに求められる専門知識（投）	「投」トレーニングの立案
14	コーチングに求められる専門知識（投）	「投」トレーニングの発表
15		
16		

科目コード	G10100				区 分	スポーツ科学研究コア			
授業 科目名	スポーツ科学特論				担当者名	真田 久／友添 秀則／佐野 淳／浅井 武／西嶋 尚彦／吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	1期・2期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場において活躍できる人材として必要とされるスポーツの文化および教育に関わる基本的内容、またスポーツ科学の自然科学的内容の大学院レベルを勘案して、最新の情報を交えた基礎的内容・知識を取り上げる。

<授業の到達目標>

1. スポーツ科学を構成するスポーツ諸科学に関する最新の成果と課題を理解する。2. スポーツ文化・教育領域における社会的課題について理解し、その課題解決について考える。 3. スポーツ科学・応用実践領域における社会的課題について理解し、その課題解決について考える。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれの研究方法について事前に予習してそれらの概要を調べる。また授業後には必ず復習して自身の研究に生かせる点がないか検討する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP1. スポーツ科学の立場から、人間の身体と運動のメカニズム、およびスポーツの文化的・教育的な価値などに関して深い知識と洞察力を持つとともに、高度な運動指導の技能を修得していること。及び、DP3. スポーツ科学研究を基軸とした倫理観、責任感を持ち、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮して未来社会に貢献する意志と実践力を修得していることに該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

林洋輔（2023年8月30日） 体育の学とはなにか 株式会社 道和書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツ科学と文化・教育 1	授業の目的、方法、基本的な概念について説明を行う。スポーツ科学としてのスポーツ倫理学（友添）というテーマにて、スポーツ倫理学の基本的な考え方と、それがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツ倫理学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
2	スポーツ科学と文化・教育2	スポーツ科学としてのスポーツ教育学（友添）というテーマにて、スポーツ教育学の基本的な考え方と、それがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツ教育学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
3	スポーツ科学と文化・教育 3	スポーツ科学としてのスポーツ史（真田）というテーマにて、スポーツ史の基本的な考え方と、それがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツ史を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
4	スポーツ科学と文化・教育 4	スポーツ科学としてのスポーツ人類学（真田）というテーマにて、スポーツ人類学の基本的な考え方と、それがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツ人類学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。

5	スポーツ科学と文化・教育 5	スポーツ科学としてのスポーツ運動学（佐野）というテーマにて、スポーツ運動学の基本的な考え方と、それがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツ運動学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
6	スポーツ科学・応用実践 1	スポーツ科学としてのバイオメカニクス（浅井）というテーマにて、スポーツバイオメカニクス学の基本的な考え方と、それがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツバイオメカニクス学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
7	スポーツ文化・応用実践 2	スポーツ科学としての身体情報分析論（西嶋）というテーマにて、身体情報分析論がスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツ身体情報分析論を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
8	スポーツ科学・応用実践 3	スポーツ科学としてのデータサイエンス（西嶋）というテーマにて、データサイエンスがスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、データサイエンスを取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
9	スポーツ科学・応用実践 4	スポーツ科学としてのアダプテッド・スポーツ学（香田泰子先生）というテーマにて、アダプテッド・スポーツ学がスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、アダプテッド・スポーツ学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
10	スポーツ科学・応用実践 5	スポーツ科学としての運動生理学（吉岡）というテーマにて、運動生理学がスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、運動生理学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
11	スポーツ科学・応用実践 6	スポーツ科学としてのトレーニング学（吉岡）というテーマにて、トレーニング学がスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、スポーツトレーニング学を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
12	スポーツ科学・応用実践 7	スポーツ科学としてのコーチング学（個人種目）（佐野）というテーマにて、コーチング学（個人種目）がスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、コーチング学（個人種目）を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
13	スポーツ科学・応用実践 8	スポーツ科学としてのコーチング学（集団種目）（浅井）というテーマにて、コーチング学（集団種目）がスポーツ科学の発展にどのように寄与する要素を備えているのか、について先行研究を踏まえて学修する。また、コーチング学（集団種目）を取り巻く社会的課題について理解し、その課題解決についてディスカッションしながらその方法を探る。
14	スポーツ科学特論まとめ	スポーツ科学と文化・教育 5 回、およびスポーツ科学・応用実践 8 回の内容を踏まえて、スポーツ科学とは何を、何のために、どのように明らかにする学問であるのかについて、ディスカッションする。それらを通して最終的に何を学び得たのか、ということについて知見をまとめる。
15		
16		

科目コード	G20104				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業科目名	スポーツ運動学特論				担当者名	佐野 淳			
配当年次	1年	配当学期	第1、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

運動現場を活性化させる上で今日重要視されている、スポーツ運動学の考え方および基礎理論について概説する。具体的には、体育やスポーツにおいて行われる「運動」を「わざ」と認識すること、その「わざ」の習得やその良し悪しの評価および指導上の問題について講義する。

<授業の到達目標>

1. スポーツ運動学の基本的知識を理解する。2. スポーツ運動を単なる身体運動ではなく、「わざ」と認識することができるようになる。3. スポーツ運動ができるようになることが人間開発において重要だと考えられるようになる。

<授業の方法>

基本的に、講義形式をとる。なお、学生には毎時、授業内容の骨子を記した資料を配布して授業を進める。また、毎時、次回までに考えてくる内容を伝え、その内容を次時に提出させるようにさせ、講義内容の理解の効果を上げるようにする。ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

とくになし。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に配布した資料を復習して、授業に臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

マイネル（1981） スポーツ運動学、大修館書店 大修館書店
金子明友（2005）金子明友（2009） 身体知の形成上・下スポーツ運動学 明和出版
佐野 淳（2023） 基礎から学ぶ スポーツ運動学 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツにおける「運動」をめぐる概念について	スポーツ科学における「スポーツ運動学」という運動理論の独自の「（身体）運動」の考え方
2	運動達成と体力、技術	運動における技術の問題
3	身体知	運動のパフォーマンス（達成）と身体知の関係
4	ゲシュタルト概念	スポーツ運動のゲシュタルト的認識の問題
5	運動の時空系	運動者が体験する時間－空間座標系
6	運動とわざ	スポーツ運動を「わざ」として認識することの意義
7	できるの問題性	課題達成現象としての「できる」の問題
8	できるの評価	「できる」という状態の評価について
9	できるの意味	運動者にとっての「できる」ことの意味
10	できるの実存的 content	「できる」現象の人的側面の問題
11	発生分析	運動現場で行われる創発分析と促発分析
12	現存在分析的運動分析	運動現場で重要な現存在分析の方法について
13	形態学と運動学	スポーツ運動学と形態学（モルフォロジー）の関係
14	まとめ（スポーツ運動学理論の本質）	スポーツ運動学と実践現場の関係
15		
16		

科目コード	G20100				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業科目名	スポーツ文化特論				担当者名	真田 久			
配当年次	1年	配当学期	1期、2期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

スポーツ人類学の視点から、今日の体育・スポーツがどのような方向に向かっていて、どのような課題に遭遇しているか、について学修する。さらに、オリンピックなどの競技会の特徴的な文化要素（理念、組織、技術文化など）について比較考察することで、文化としてのスポーツの意味や変容を理解し、今後のスポーツ文化のあり方について構想できる能力を涵養する。

<授業の到達目標>

1. 今日の体育・スポーツに関わる政策などについて理解するとともに、その課題解決について考究する能力を涵養する2. オリンピック競技会に関して、民族的な競技会から始められた一面もあることを理解する。3. オリンピック競技会の課題を見つめ、文化としてのスポーツやオリンピックの今後のあり方を構想できるようになる。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、AIやICTを必要に応じて活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストを事前に渡すので、それを読んで自分の意見をまとめておく。復習も行う。合わせて3時間程度要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

ディプロマポリシーのうち、DP2. 社会におけるスポーツの諸課題に対して、スポーツ科学に立脚した論理的思考により分析し、その解決法を的確に見出すことのできる能力と発信力を修得していること、に該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

遠藤利明監修（2024年12月） スポーツの現在地を考える ベースボール・マガジン社

<参考書>

日本オリンピック・アカデミ ー編（2022） 2020+1 東京大会を考える メディアパル
真田久（2011） 19世紀のオリンピア競技祭 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、およびスポーツ文化に関する基本的な概念についてディスカッション形式で学修する。また、スポーツ科学研究科の成立過程とその目的や社会における立ち位置などについて理解を深める。
2	近代ギリシャのオリンピア競技祭	19世紀の近代ギリシャにおいて、ギリシャ独自で古代オリンピックの復興を目指した競技祭が4回開催されたことについて学修する。その精神文化、社会文化、技術文化に立て分け、スポーツ文化複合の概念を持ってこれらのギリシャ独自のオリンピックについて分析する。またそれらが近代オリンピックの第一回アテネ大会とどのように関わったかについて、ディスカッションを通して解釈する。
3	スポーツ基本法のこれまでとこれから	2011年に成立した「スポーツ基本法」の成立過程と内容について学修する。そして2025年に「スポーツ基本法」は改正されたが、改正に至る要因や改正点についてディスカッションして理解を深める。
4	スポーツコンプレックス (Sports Complex)	スタジアム、アリーナ、プール、トレーニング施設などを複合的に備えた大規模なスポーツ・施設群の総称であるスポーツコンプレックスについて、単なる競技場ではなく、周辺地域と連携したまちづくりの拠点（スタジアム・アリーナ改革）として、交流人口の拡大や経済活性化を目的として活用されるものであることを学修する。それらが具体的にどのように活用されているか、課題は何か等について分析する。
5	現代社会にとってのeスポーツ	現代社会において欠かせない文化になりつつある eスポーツについて、その成り立ちや現在の競技の仕組みなどについて学修するとともに、eスポーツの抱える課題とそれへの取組みについて調べ、今後のスポーツ界におけるeスポーツのあり方を模索する。

6	スポーツ・インテグリティ	スポーツ・インテグリティとは何か、どのような経緯で現代において重要な位置付けになったのかについて学修する。そしてどのようにしたらスポーツインテグリティは現代において担保されるのか、についてディスカッションしながら考察する。
7	公営競技とスポーツ振興くじの現在地	公営競技とされている競馬、競輪、競艇などについてその成り立ちと現代社会における役割について学修する。またスポーツ振興くじについて、その設立経緯、役割と機能についてディスカッションを通して分析する。
8	「体育」のこれまでとこれから	学校教育における「体育」について、その役割の変遷について学修する。スポーツの言葉の使われ方が拡大している今日において、「体育」に求められる機能と役割は何であるのか、ディスカッションを通して考察する。
9	地域からのスポーツ推進	地域創生に果たすスポーツの役割について、スポーツ政策やスポーツ行政、さらにはスポーツ産業の視点から学修する。そして具体的な例から、スポーツが地域に果たす役割についてディスカッションを通して考察する。
10	国民スポーツ大会の現在地	佐賀大会を契機に国民スポーツ大会は大きく変容していくと言われているが、具体的にどのような点に変容したのかについて学修する。国民体育大会からの変更点と今後の課題について、ディスカッションを通して分析する。
11	スポーツ道について	大谷武一が示した「スポーツ道」に関する論稿から、「スポーツ道」とはどのようなものであるのか、また、嘉納治五郎との関連についてディスカッションを通して分析する。
12	パラリンピック競技会について	パラリンピック競技会はオリンピック競技会と同等の立場になりつつあるが、パラリンピック協議会の成立過程や発展過程について分析する中で、今後のパラリンピック・ムーブメントのあり方についてディスカッションを通して探求する。
13	スポーツと国際協力・国際貢献	東京2020大会において、「スポーツ・フォー・トゥモロー」という国際協力・国際貢献プロジェクトが官民学が協力して行われた。その内容と成果や課題について学修する。そして今後のスポーツによる国際協力・国際貢献のあり方について探究する。
14	オリンピック・ムーブメントについて	ロサンゼルス2028の理念と特徴について学修する。3度目となるロサンゼルスにどのようなレガシーを築いてきたのか調べ、今後のオリンピック・ムーブメントのあり方について探究する。また本講義のまとめを行う。
15		
16		

科目コード	G20102				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業 科目名	スポーツ倫理学特論				担当者名	友添 秀則			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

現代スポーツの目覚ましい発展と隆盛は様々な倫理的問題をもたらした。メガイイベントでのテロの脅威は警備費を押し上げ、他方、様々な規制をかいくぐってドーピング問題も後を断たない。この他にも、違法賭博、暴力、スポーツ組織の汚職、性差別や人種差別等の倫理的アポリア（難問）に直面している。本講義では、スポーツの諸問題を倫理的に考察し、解決の糸口を探究する。

<授業の到達目標>

1. 現代スポーツにみられる倫理的諸問題について具体的に理解できるようになる。2. 現代スポーツの倫理的諸問題を考察するために必要となる倫理的概念や倫理的知識について分かるようになる。3. 現代スポーツにおける倫理的諸問題の解決の道筋を構想できるようになる。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど双方向に行う。Google ClassroomやZoomをはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れ、講義に加えてディスカッション、グループワーク等を行う。学生は授業の事前学習を踏まえて授業に参加し、他者との協働を通じて講義内容の理解深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に準備学習を行えるように、参考となる文献等を紹介するので、確認するように努める。授業後は講義内容を確認できるよう、復習の仕方を都度教示する。準備学習、復習に各1時間程度を充てることが望まれる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

スポーツ文化・教育領域におけるの修士論文執筆のための基礎的な知識と技法が講義される。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 30%、プレゼンテーション 20%、課題提出 20%、最終レポート 30%の割合で、評価を行う。

<教科書>

友添秀則編（2019） よくわかるスポーツ倫理学 ミネルヴァ書房

友添秀則・岡出義則編（2016） 新版 教養としての体育原理 大修館書店

友添秀則編（2025） 講義 スポーツ倫理学を学ぶ 大修館書店

<参考書>

友添秀則（2026） これからのスポーツの姿 改正「スポーツ基本法」を読む 学事出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	倫理学の基礎知識	現代スポーツを考えるための倫理的基礎
3	スポーツ倫理学の基礎（1）	スポーツの倫理学、その基礎づけ
4	スポーツ倫理学の基礎（2）	現代スポーツをめぐる倫理的アポリアと課題
5	スポーツ倫理学の基礎（3）	スポーツにおける倫理的考察の方法
6	スポーツ倫理学の適用（1）	勝利と敗北の倫理的意味
7	スポーツ倫理学の適用（2）	勝利至上主義の功罪と倫理的考察
8	スポーツ倫理学の適用（3）	薬物乱用とドーピングの倫理的評価
9	スポーツ倫理学の適用（4）	スポーツにおける暴力・暴動の倫理的考察
10	スポーツ・インテグリティと倫理（1）	インテグリティ、コンプライアンス、ガバナンスの意味論
11	スポーツ・インテグリティと倫理（2）	インテグリティの擁護と強化をめぐる
12	スポーツ・インテグリティと倫理（3）	インテグリティとフェアネス
13	スポーツにおける差別（1）	平等概念の倫理的意味づけ、人種差別
14	スポーツにおける差別（2）	・ジェンダーの倫理的考察とLGBTQ・講義の総括と試験
15		
16		

科目コード	G30103				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	身体活動情報分析学特論				担当者名	西嶋 尚彦			
配当年次	1年	配当学期	第3期第4期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

データ授業方法を適用して、プロスポーツのアナリティクスにおけるゲームパフォーマンスデータの現状とデータ分析方法をデータ資料から講義し、実践する。

<授業の到達目標>

1. スポーツ分野におけるデータサイエンスの発展と今後の展望を学修する。 2. スポーツデータの統計学的データ分析の実践力を学修する。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プロジェクト型学習（PBL）法を適用して、例題データの測定方法と分析方法 について探求する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習内容のキーワードを検索して、まとめる。1時間程度の予習および復習を実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	ゲームデータの測定：サッカー	サッカーのプロリーグで測定される試合データ
3	ゲームデータの測定：野球	野球のプロリーグで測定される試合データ
4	ゲームデータの測定：バスケットボール	バスケットボールのプロリーグで測定される試合データ
5	測定で用いる尺度特性	測定の単位と尺度特性
6	データ分析のプログラミング	統計学的データ分析の方法
7	分散分析	原因を探るデータ分析
8	相関分析	変数間の関係を探るデータ分析
9	回帰分析	因果関係を推定するデータ分析
10	構造方程式モデリング	因果構造モデルを検証するデータ分析
11	項目反応理論	達成度評価のテスト理論のデータ分析
12	機械学習のプログラミング	機械学習のデータ分析方法
13	決定木分析	重なる原因を探るデータ分析
14	ニューラルネットワーク分析	棚見込みニューラルネットワークでデータ分析
15		
16		

科目コード	G30101				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス特論				担当者名	浅井 武			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

バイオメカニクスに関連した、マルチボディダイナミクス（多体動力学）や材料科学、流体科学等の基礎的知識を学習する共に、身体運動やスポーツにおける適用例を検討し、それらの理解や実践、指導に応用する能力を習得する。

<授業の到達目標>

1. バイオメカニクスに関連した、多体動力学や材料科学、流体科学の基礎的知識を習得する。 2. バイオメカニクスの基礎を科学的に理解し、身体運動や生体力学を分析できるようになる。 3. バイオメカニクスに関連した科学的分析や検討を適用し、身体運動等に関する問題解決ができるようになる。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングは実施しない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義後30分程度の復習を実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	身体運動における基礎力学1	身体運動に関するキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
3	身体運動における基礎力学2	身体運動に関するキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
4	身体運動におけるマルチボディシステム1	身体運動におけるマルチボディダイナミクスのキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
5	身体運動におけるマルチボディシステム2	身体運動におけるマルチボディダイナミクスのキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
6	身体運動におけるマテリアルサイエンス1	身体運動におけるマテリアルサイエンスのキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
7	身体運動におけるマテリアルサイエンス2	身体運動におけるマテリアルサイエンスのキネティクスの基礎概念を講義
8	身体運動における流体科学1	身体運動における流体科学のキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
9	身体運動における流体科学2	身体運動における流体科学のキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク
10	走運動	走運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク
11	跳運動	跳運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク
12	投運動	投運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク
13	打運動、泳運動	打運動、泳運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク
14	試験、まとめ	学習した内容を総合的に評価する。
15		
16		

科目コード	G40100				区 分	スポーツ科学研究コア			
授業科目名	スポーツ科学研究演習 I				担当者名	真田 久／友添 秀則／佐野 淳／浅井 武／西嶋 尚彦／吉岡 利貢／宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	1期、2期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

修士論文または特定課題研究作成のために不可欠な、研究目的設定のための問題意識に関して討議する。研究倫理やアカデミック・ライティングの方法を理解するとともに、重要な文献や論文の内容や課題を把握できる能力を涵養する。スポーツ科学研究関連の先行研究となる文献や論文の内容を理解し、課題を発見できるようにする。

<授業の到達目標>

1. 研究倫理やアカデミック・ライティングの方法を理解する。2. スポーツ科学に関わる研究について理解し、重要な文献や論文の内容を的確に把握する。3. 先行研究となる文献や論文の内容を理解し、課題を発見する。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業は他教員とのディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業は他教員とのディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示された教材を熟読してまとめたり、先行研究としての研究論文をまとめたりする。予習・復習で3時間程度要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2. 社会におけるスポーツの諸課題に対して、スポーツ科学に立脚した論理的思考により分析し、その解決法を的確に見出すことのできる能力と発信力を修得していること、及びDP3. スポーツ科学研究を基軸とした倫理観、責任感を持ち、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮して未来社会に貢献する意志と実践力を修得していることに該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念について説明するとともに、研究倫理について具体例について調べ、それについてディスカッションしながら不正を行わない態度を涵養する。
2	修士論文・特定課題研究について	修士論文又は特定課題研究の構成について、どのような相違があるのか、について具体的な先行研究を読んで、その内容についてディスカッションしながら理解する。
3	修士論文の読解 1	筑波大学の修士論文の内容を熟読し、研究の目的、課題と方法についてどのように記述されているかをまとめて、その内容の評価についてディスカッションする。
4	修士論文の読解 2	鹿屋体育大学の修士論文の内容を熟読し、研究の目的、課題と方法についてどのように記述されているかをまとめる。そして的確な表現がなされているかについてディスカッションしながら分析する。
5	修士論文の読解 3	早稲田大学の修士論文の内容を熟読し、研究の目的、課題と方法についてどのように記述されているかをまとめる。そして的確な表現がなされているかについてディスカッションしながら分析する。
6	問題意識に関する討議 1	自身の研究目的を設定するため、テーマについてどのような問題意識を持っているのか、それは今日のどのような体育・スポーツの課題に応えることになるのか、などについて討議する。
7	問題意識に関する討議 2	自身の研究目的を設定するため、テーマについてどのような問題意識を持っているのか、それは今日のどのような体育・スポーツの課題に応えることになるのか、などについて討議する。
8	問題意識に関する討議 3	自身の研究目的を設定するため、テーマについてどのような問題意識を持っているのか、それは今日のどのような体育・スポーツの課題に応えることになるのか、などについて討議する。

9	研究課題に関する討議 1	自身の研究目的を達成するため、どのような課題設定をすれば良いのか、それは目的を達成するために適切な課題になっているか、などについて討議する。
10	研究課題に関する討議 2	自身の研究目的を達成するため、どのような課題設定をすれば良いのか、それは目的を達成するために適切な課題になっているか、などについて討議する。
11	研究課題に関する討議 3	自身の研究目的を達成するため、どのような課題設定をすれば良いのか、それは目的を達成するために適切な課題になっているか、などについて討議する。
12	先行研究の検討 1	自身の研究テーマに関する先行研究となる文献や論文の目的、課題設定や研究の方法に関して討議する。
13	先行研究の検討 2	自身の研究テーマに関する先行研究となる文献や論文の目的、課題設定や研究の方法に関して討議する。
14	先行研究の検討 3	自身の研究テーマに関する先行研究となる文献や論文の目的、課題設定や研究の方法に関して討議する。
15		
16		

科目コード	G40100				区 分	スポーツ科学研究演習			
授業 科目名	スポーツ科学研究演習 I				担当者名	品田 直宏／梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

修士論文または特定課題研究作成のために不可欠な、研究目的設定のための問題意識に関して討議する。研究倫理やアカデミック・ライティングの方法を理解するとともに、重要な文献や論文の内容や課題を把握できる能力を涵養する。スポーツ科学研究関連の先行研究となる文献や論文の内容を理解し、課題を発見できるようにする。

<授業の到達目標>

1. 研究倫理やアカデミック・ライティングの方法を理解する。 2. スポーツ科学に関わる研究について理解し、重要な文献や論文の内容を的確に把握する。 3. 先行研究となる文献や論文の内容を理解し、課題を発見する。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。具体的には、修士論文または特定課題研究に向けた問題意識の明確化を目的として、文献抄読に基づく発表およびディスカッションを中心に授業を展開する。学生は、スポーツ科学に関する先行研究を精読し、その内容や課題について整理・発表を行うとともに、他の学生との討議を通して多角的な視点から研究課題を検討する。また、研究計画の立案やアカデミック・ライティングに関する課題に取り組み、教員および学生同士のフィードバックを受けながら内容の改善を図る。これらの活動を通して、主

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計180分以上の学習を行うことを想定する。予習としては、自身の研究テーマに関連する先行研究の収集および精読、研究課題の整理、発表資料の作成等を行うこと。復習としては、授業内でのディスカッションや指導内容を踏まえ、研究計画の見直しや修正を行うとともに、追加の文献調査やアカデミック・ライティングの推敲を行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、到達目標に基づき以下の割合で総合的に評価する。・学習態度：20％・グループへの貢献：20％・課題提出：20％・最終レポート：40％学習態度については、授業への主体的な参加状況や発言、研究への取り組み姿勢等を評価する。グループへの貢献については、ディスカッションや共同作業における関与度、他者へのフィードバックの質等を評価する。課題提出については、文献理解、課題設定の妥当性、論理的な整理等の観点から評価する。最終レポートについては、研究目的の明確性、先行研究の整理、課題設定の妥当性、論理性、アカデミック・ライティングの適切性等を総合的に評価する。フィードバックについては、発表および課題に対して授業内での講評やディスカッションを通して随時行うとともに、提出物に対してはコメント等により具体的な改善点を提示し、研究の質の向上を図る。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、研究倫理
2	修士論文・特定課題研究について	修士論文又は特定課題研究の構成について理解する
3	修士論文の読解 1	他大学の修士論文の内容（目的、課題と方法）を読解する
4	修士論文の読解 2	他大学の修士論文の内容（目的、課題と方法）を読解する
5	修士論文の読解 3	他大学の修士論文の内容（目的、課題と方法）を読解する
6	問題意識に関する討議 1	研究目的設定のための問題意識に関して討議する
7	問題意識に関する討議 2	研究目的設定のための問題意識に関して討議する
8	問題意識に関する討議 3	研究目的設定のための問題意識に関して討議する
9	研究課題に関する討議 1	研究目的設定のための研究課題に関して討議する
10	研究課題に関する討議 2	研究目的設定のための研究課題に関して討議する
11	研究課題に関する討議 3	研究目的設定のための研究課題に関して討議する
12	先行研究の検討 1	先行研究となる文献や論文の目的、方法に関して討議する
13	先行研究の検討 2	先行研究となる文献や論文の目的、方法に関して討議する
14	先行研究の検討 3	先行研究となる文献や論文の目的、方法に関して討議する
15		
16		

科目コード	G20105				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業 科目名	地域スポーツ特論				担当者名	柴山 慧			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本講義では、日本の地域スポーツについて、社会学、経営学、教育学などの視点から考察、議論する。具体的には、総合型地域スポーツクラブ、学校体育と地域スポーツの関係性、地方におけるスポーツを通じた活性化などを主要テーマとする。

<授業の到達目標>

1. 日本の地域スポーツに関する諸問題について、社会学、経営学、教育学の視点から捉え、考察することができる。2. 1で考察した内容について、様々な方法でプレゼンテーションし、他者との議論の中で更に深めることができる。3. 2をもとに、地域スポーツに関するフィールド調査をもとに、自身の考察を文章にまとめて発信することができる。

<授業の方法>

担当教員による講義だけでなく、受講者を交えた議論、プレゼンテーション、フィールド調査など様々な授業方法で、相互に学び合える環境を創出し、理論だけでなく実践的な知見を得られるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講者自身が調査、研究した内容の発表、それについての議論

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に指定された資料や論文について熟読すること

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	日本の地域スポーツについての総説	これまでの地域スポーツの変遷、地域スポーツの現状や課題について
3	総合型地域スポーツクラブ①	総合型地域スポーツクラブ創設の経緯、その現状や課題
4	総合型地域スポーツクラブ②	IPUスポーツアカデミーへのフィールド調査
5	総合型地域スポーツクラブ③	今後の総合型地域スポーツクラブに関する考察
6	地域スポーツと学校体育の関係性①	これまでの地域スポーツと学校体育の関係性、その現状や課題
7	地域スポーツと学校体育の関係性②	日本国内での具体的事例検証
8	地域スポーツと学校体育の関係性③	今後の地域スポーツと学校体育の関係性についての考察
9	地方におけるスポーツを通じた活性化①	地方におけるスポーツを通じた活性化についての概要
10	地方におけるスポーツを通じた活性化②	地方におけるスポーツを通じた活性化についてのフィールド調査
11	地方におけるスポーツを通じた活性化③	これからの地方におけるスポーツを通じた活性化についての考察
12	フィールド調査①	大学近辺の地域スポーツについてのフィールド調査の技法について
13	フィールド調査②	大学近辺の地域スポーツについてのフィールド調査の実施
14	フィールド調査③	フィールド調査の結果についての議論と考察とまとめ
15		
16		

科目コード	G20106				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業 科目名	スポーツ心理学特論				担当者名	上野 耕平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

スポーツ心理学はスポーツ場面において生じる様々な現象に対して、心理学的方法を用いてアプローチする応用科学の一分野である。そこでは実験心理学、社会心理学、臨床心理学他多くの専門領域において蓄えられた知見をもとに、スポーツ場面における問題を分析・解釈してきた。従ってスポーツ心理学の射程は極めて広い範囲に及んでおり、決して一つの専門領域からのアプローチで終わるものではない。そこで本講義では、選手や指導者がスポーツ場面において経験する心理的問題を扱った様々な先行研究について発表・議論する中で、スポーツ心理学の視

<授業の到達目標>

1) スポーツ選手が直面する問題についてスポーツ心理学の側面から説明できる 2) スポーツ指導者が直面する問題についてスポーツ心理学の側面から説明できる

<授業の方法>

授業で用いる文献は、受講生の状況に応じて最終的に確定する。授業序盤では、我が国におけるスポーツ心理学分野で行われている先端の研究成果に触れた後、受講生個人の興味や関心に近い領域の成果についての見識を深める。そのため、授業計画に示した内容は受講生の興味や関心に依りて、一部変更する可能性がある。いずれの授業も、受講生が事前に作成した資料に基づいて発表した後に、その内容を踏まえて全体で議論を行う形式で授業を進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：受講生が事前に作成した資料に基づいて発表した後に、その内容を踏まえて全体で議論を行う形式で授業を進める

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に発表用の資料を作成し、事後は授業内で議論した内容について振り返りを行うこと（3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、授業への積極的参加 40%，課題提出 30%，最終レポート 30%の割合で評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明と確認
2	動機づけに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
3	社会的アイデンティティに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
4	リーダーシップに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
5	社会性の発達に関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
6	心理社会的発達に関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
7	マインドフルネスに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
8	メンタルヘルスに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
9	行動変容に関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
10	心理サポートに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
11	スポーツカウンセリングに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
12	チームの心理サポートに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
13	運動学習論と心理サポートに関する研究の動向	テーマに関する文献の発表と討議
14	まとめ	授業の振り返り
15		
16		

科目コード	G20101				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業科目名	スポーツ史特論				担当者名	真田 久			
配当年次	1年	配当学期	3期、4期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

古代から今日に至るまで、人間形成に関わる体育やスポーツの考え方について理解するとともに、日本において嘉納治五郎の体育教育やスポーツの発展に果たした業績と理念について理解し、今後の社会における人間形成に有益な体育教育やスポーツのあり方について展望できる能力を涵養する。

<授業の到達目標>

1. 古代から現代までにおける様々な人物による体育やスポーツによる人間形成の考えについて俯瞰できるようになる。2. 嘉納治五郎の体育教育とスポーツに関する業績について理解する。3. 今後の社会に必要とされる体育教育やスポーツによる人間形成のあり方について構想できる能力を涵養する。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業は他教員とのディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各回に受講生が予習してきたことを発表し、その後に講義を行う。それらについてディスカッションを行なって理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教材を出すので、それについて予習を行う。また各講義の復習もおこなう。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

ディプロマポリシーのうち、DP2. 社会におけるスポーツの諸課題に対して、スポーツ科学に立脚した論理的思考により分析し、その解決法を的確に見出すことのできる能力と発信力を修得していること、に該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

『成田文庫』記念論集刊行会編（2025） スポーツ文化研究のシナジー 不昧堂出版
 生誕150周年記念出版委員会編（2011） 嘉納治五郎 気概と行動の教育者 筑波大学出版会
 岸野雄三編（1979年1月） 体育・スポーツ人物思想史 不昧堂出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念について説明するとともに、これまでに関わったスポーツの歴史について検索し、それについてディスカッションする。
2	古代の体育・スポーツ 1	ソクラテスとプラトンによる体育と人間形成について、学修する。ソクラテスは身体を鍛えることの重要性を述べ、プラトンはそれを教育の枠組みに入れ、Gymnastike（ギムナスティケー：体育）として体系化した。それを今日の体育と比較して理解を深める。
3	古代の体育・スポーツ 2	ピンダロスによるオリンピックと人間形成について学修する。紀元前5世紀に活躍した頌歌詩人ピンダロスの詩を通して、古代オリンピックを通して求められた理想的アスリート像についてディスカッションして理解を深める。
4	近代の体育・スポーツ 1	グーツムツによる体育と人間形成について学修する。18世紀に著した『青少年の体育』の内容について調べてそれを発表し、今日の体育の内容と比較する。特に感覚器官の訓練が体育の内容に合致するかどうか、吟味する。
5	近代の体育・スポーツ 2	クーベルタンによるスポーツと人間形成について学修する。クーベルタンはなぜオリンピックの復興を構想したのか、その思想的背景について調べて発表し、ディスカッションする。今日のオリンピックをクーベルタンの思想の視点から分析する。
6	嘉納治五郎の修学時代と講道館創設	嘉納治五郎の修学と講道館柔道の創設について、教材を読んできた内容を発表し、それについて講義を行う。そして嘉納治五郎が講道館創設に至った基底に、どのような若い時の修学が影響していたのかについてを学修する。
7	嘉納治五郎による東京高等師範学校における体育	嘉納治五郎は1893年に東京高等師範学校校長に就任し、それから4半世紀、日本の体育教育を構築しているが、そのく過程を調べてディスカッションする。校友会活動や体育科の設置などを通して、嘉納治五郎の体育観について理解を深める。

8	嘉納治五郎による留学生教育	嘉納治五郎は8000人近くの留学生を受け入れたことに注目し、留学生に対してどのような教育をおこなったのか、特に体育・スポーツの面でどのようなことを配慮したのか、などについて調べてきた内容をディスカッションしながら学修する。今日の留学生教育との比較を通して理解を深める。
9	嘉納治五郎による長距離走と水泳の普及	嘉納治五郎は長距離走と水泳の普及にも力を注いだ。それぞれどのようにして普及を図ったのか、について調べて発表し、これらのスポーツの普及を図った意図についてディスカッションする。また今日の状況と比較する。
10	嘉納治五郎によるオリンピック・ムーブメントへの参加	嘉納治五郎は国民体育の振興とオリンピック・ムーブメントへの参画のために大日本体育協会を創設したが、その経緯と意義について調べた内容を発表しながらディスカッションして理解を深める。特に日本がオリンピック・ムーブメントの参加してその後の体育・スポーツ界にどのような影響を与えたのかについても吟味する。
11	嘉納治五郎による関東大震災からの復興	1923年に起きた関東大震災直後に嘉納治五郎は復興のためにスポーツを新たな次元で展開したことについて学修する。どのようにしてスポーツを復興のために用いようとしたのか、またその結果について調べて発表し、ディスカッションしながら理解を深める。今日の災害復興と比較して分析する。
12	嘉納治五郎によるオリンピック招致	東京へのオリンピック招致の活動とその成果について学修する。1940年大会に向けて東京招致に奔走するが、どのような理念と活動をおこなったのかについて、調べた内容を発表しながらディスカッションする。招致が成功した要因について分析する。
13	東京1964大会、東京2020大会と嘉納治五郎	東京1964大会と東京2020大会について、嘉納治五郎のレガシーという視点から学修する。柔道のオリンピック種目化の経過や東京オリンピックの特徴を調べながら、嘉納治五郎の考えの視点から分析する。また東京2020大会にて発表されたオリンピック・モットーについて着目し、その内容について吟味する。
14	スポーツを歴史的に分析することの意味とまとめ	これまでの講義やディスカッションを通して、スポーツを歴史的に分析することの意味について、それぞれが発表し合い、今後も歴史的視点と未来志向の考えで体育・スポーツに接していくことの重要性を理解する。理解度を測る試験も行う。
15		
16		

科目コード	G10101				区 分	スポーツ科学研究コア			
授業 科目名	スポーツ科学研究方法論				担当者名	真田 久／友添 秀則／佐野 淳／浅井 武／西嶋 尚彦／吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	3期・4期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ科学研究に関する基礎的な研究方法について、スポーツ文化・教育とスポーツ科学応用・実践領域のそれぞれの視点から理解するとともに、修士論文又は特定課題研究の作成のための研究方法を展望できる能力を涵養する。

<授業の到達目標>

1. 修士論文又は特定課題研究作成のための研究計画を立てるための基礎知識を得る。 2. スポーツ科学に関わる多様な研究方法を理解し、課題を設定できるようになる。 3. 設定された課題を達成するための研究計画を構想できるようになる。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。それぞれ1時間半程度とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP1. スポーツ科学の立場から、人間の身体と運動のメカニズム、およびスポーツの文化的・教育的な価値などに関して深い知識と洞察力を持つとともに、高度な運動指導の技能を修得していること。及び、DP3. スポーツ科学研究を基軸とした倫理観、責任感を持ち、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮して未来社会に貢献する意志と実践力を修得していることに該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

各担当教員が指示する

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツ文化・教育の研究 方法論 1	授業の目的、方法、研究倫理、スポーツ文化・教育の研究 方法論 1 スポーツ史の視点とスポーツ科学研究の方法（真田）というテーマにて、スポーツ史の研究 方法について先行研究を通して理解するとともに、スポーツ史の視点での課題設定について、 ディスカッションしながら学修する。また、自身の研究にスポーツ史の視点を入れるとどのよう に展開できるかを考えてみる。
2	スポーツ文化・教育の研究 方法論 2	スポーツ人類学の視点とスポーツ科学研究の方法（真田）というテーマにて、ス ポーツ人類学の研究方法について先行研究を通して理解するとともに、スポーツ人類 学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身 の研究にスポーツ人類学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
3	スポーツ文化・教育の研究 方法論 3	スポーツ倫理学の視点とスポーツ科学研究の方法（友添）というテーマにて、ス ポーツ倫理学の研究方法について先行研究を通して理解するとともに、スポーツ倫理 学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身 の研究にスポーツ倫理学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
4	スポーツ文化・教育の研究 方法論 4	スポーツ教育学の視点とスポーツ科学研究の方法（友添）というテーマにて、ス ポーツ教育学の研究方法について先行研究を通して理解するとともに、スポーツ教 育学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自 身の研究にスポーツ教育学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみ る。
5	スポーツ文化・教育の研究 方法論 5	スポーツ運動学の視点とスポーツ科学研究の方法（佐野）というテーマにて、ス ポーツ運動学の研究方法について先行研究を通して理解するとともに、スポーツ運 動学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身 の研究にスポーツ運動学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。

6	スポーツ科学・応用実践研究方法論 1	身体活動情報分析論の視点とスポーツ科学研究の方法（西嶋） というテーマにて、身体活動情報分析論の研究手法について先行研究を通して理解するとともに、身体活動情報分析論の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域に身体活動情報分析論の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
7	スポーツ科学・応用実践研究方法論 2	データサイエンスの視点とスポーツ科学研究の方法（西嶋） というテーマにて、データサイエンスの研究手法について先行研究を通して理解するとともに、データサイエンスの視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域にデータサイエンスの視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
8	スポーツ科学・応用実践研究方法論 3	スポーツバイオメカニクスの視点とスポーツ科学研究の方法（浅井） というテーマにて、スポーツバイオメカニクスの研究手法について先行研究を通して理解するとともに、バイオメカニクスの視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域にバイオメカニクスの視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
9	スポーツ科学・応用実践研究方法論 4	アダプテッド・スポーツ学の視点とスポーツ科学研究の方法（香田泰子先生）というテーマにて、アダプテッド・スポーツ学の研究手法について先行研究を通して理解するとともに、アダプテッド・スポーツ学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域にアダプテッド・スポーツ学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
10	スポーツ科学・応用実践研究方法論 5	運動生理学の視点とスポーツ科学研究の方法（吉岡） というテーマにて、運動生理学の研究手法について先行研究を通して理解するとともに、運動生理学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域に運動生理学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
11	スポーツ科学・応用実践研究方法論 6	トレーニング学の視点とスポーツ科学研究の方法（吉岡） というテーマにて、トレーニング学の研究手法について先行研究を通して理解するとともに、トレーニング学の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域にトレーニング学の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
12	スポーツ科学・応用実践研究方法論 7	コーチング学（個人種目）の視点とスポーツ科学研究の方法（佐野） というテーマにて、コーチング学（個人種目）の研究手法について先行研究を通して理解するとともに、コーチング学（走・跳・投）の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域にコーチング学（走・跳・投）の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
13	スポーツ科学・応用実践研究方法論 8	コーチング学（集団種目）の視点とスポーツ科学研究の方法（浅井） というテーマにて、コーチング学（集団種目）の研究手法について先行研究を通して理解するとともに、コーチング学（集団種目）の視点での課題設定について、ディスカッションしながら学修する。また、自身の領域にコーチング学（集団種目）の視点を入れるとどのように展開できるかを考えてみる。
14	スポーツ科学研究方法論まとめ	スポーツ科学研究の方法と文化・教育 5 回、およびスポーツ科学・応用実践 8 回の内容を踏まえて、スポーツ科学研究の方法とはどのように扱うことが適切なのかについて、ディスカッションする。それらを通して最終的に何を学び得たのか、ということについて知見をまとめる。
15		
16		

科目コード	G30106				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	コーチング学特論Ⅱ（集団種目）				担当者名	浅井 武			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

身体運動やスポーツの集団種目に関連した、コーチングの基礎的知識や方法、マネージメント手法等を学習すると共に、身体運動やスポーツにおけるコーチング適用例を検討し、それらの理解や実践、指導に応用する能力を習得する。

<授業の到達目標>

1. 身体活動やスポーツの集団種目に関連した、コーチングの基礎的知識や方法を習得する。 2. 集団に関連したコーチングの知識や方法を理解し、身体運動の指導やスポーツコーチングに応用できる。 3. 集団に関連したコーチングの知識や方法を、身体運動の指導やスポーツコーチングに活用し、問題解決に結びつける。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素は無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義内容に関して30分程度復習を実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

中川昭他（日本コーチング学会編）（2019） 球技のコーチング学 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	集団のコーチングに関する基礎 1	集団コーチングの特徴に関して解説、議論、グループワーク
3	集団のコーチングに関する基礎 2	集団コーチングにおける分析方法に関して解説、議論、グループワーク
4	集団のコーチングに関する基礎 3	集団コーチングにおける指導法に関して解説、議論、グループワーク
5	集団のコーチングに関する基礎 4	集団コーチングにおけるプランニング法に関して解説、議論、グループワーク
6	集団のコーチングに関する基礎 5	集団コーチングにおけるオーガナイズ法に関して解説、議論、グループワーク
7	集団のコーチングに関する基礎 6	集団コーチングにおけるマネージメント法に関して解説、議論、グループワーク
8	集団のコーチングにおける応用 1	集団コーチングにおける実践例 1（ポジションング）に関して解説、議論、グループワーク
9	集団のコーチングにおける応用 2	集団コーチングにおける実践例 2（システム）に関して解説、議論、グループワーク
10	集団のコーチングにおける応用 3	集団コーチングにおける実践例 3（オフェンス戦術）に関して解説、議論、グループワーク
11	集団のコーチングにおける応用 4	集団コーチングにおける実践例 4（ディフェンス戦術）に関して解説、議論、グループワーク
12	集団のコーチングにおける応用 5	集団コーチングにおける実践例 5（ゲームプラン）に関して解説、議論、グループワーク
13	集団のコーチングにおける応用 6	集団コーチングにおける実践例 6（ゲーム分析）に関して解説、議論、グループワーク
14	試験、まとめ	集団コーチングにおける基礎的知識を評価
15		
16		

科目コード	G20103				区 分	スポーツ文化・教育領域			
授業科目名	スポーツ教育学特論				担当者名	友添 秀則			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

スポーツは人格陶冶の機能を有し、教育的可能性があると言われてきた。古くはイギリスのパブリックスクールでスポーツは教育の方法として重要な役割を果たした。本授業では体育とスポーツの概念を比較考察しながら、スポーツと教育の関係について理解を深めるとともに、体育科教育学との比較から、スポーツ教育学の内容を学ぶことによって、スポーツ教育学についての学問的な理解を深める。

<授業の到達目標>

1. スポーツ教育学を構成する概念や発展的知識を理解できるようになる。2. 体育科教育及びスポーツ教育の構造や異同、国内外のスポーツ教育の歴史や特徴について分かるようになる。3. これからのスポーツ教育のあり方やスポーツ教育の意義について理解できるようになる。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google ClassroomやZoomをはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、スポーツ教育学の理論と実践を往還的に理解するため、アクティブ・ラーニングを実施する。具体的には、先行研究の批判的読解やディスカッション、グループワーク等を行い、主体的に学びを構築する学習環境を提供する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習の参考として講義内容に関連する文献を紹介する。講義では振り返り学習の参考となる主要概念や文献解題を行う。予・復習で各1時間程度の時間が望まれる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

スポーツ文化・教育領域、とりわけスポーツ教育分野での修士論文執筆に必要な方法と技法を学ぶ上で本授業は有効である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 30%、プレゼンテーション20%、課題提出 20%、最終レポート 30%の割合で、評価を行う。

<教科書>

友添秀則（2009） 体育の人間形成論 大修館書店

<参考書>

友添秀則編（2018） スポーツ教育の時代 創文企画

岡出美則・友添秀則・岩田靖編（2021） 体育科教育学入門 三訂版 大修館書店

友添秀則編（2023） 運動部活動から地域スポーツクラブ活動へ 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	スポーツ教育学の歴史	スポーツ教育学の成立とスポーツ教育学研究
3	スポーツ教育学の構造	スポーツと教育の関係論の3つの次元
4	スポーツ教育の3つの次元（1）	Education about sport（スポーツの認識学習）について
5	スポーツ教育の3つの次元（2）	Education through sport（人格形成及び身体形成）について
6	スポーツ教育の3つの次元（3）	Education in sport（スポーツによる人格形成及び身体形成）
7	スポーツ教育学の対象	発達段階別スポーツ教育学と教育内容の特性について
8	体育とスポーツの概念的考察	歴史的経緯と体育とスポーツの混同、その辞書的定義の明確化
9	体育とスポーツの関係論	機能的概念と実体的概念の探究
10	体育科教育とスポーツ教育	体育科教育学とスポーツ教育学、体育学とスポーツ科学の考察
11	社会とスポーツの変化と教育（1）	スポーツの市民権の確立とスポーツ教育の発展（日本を対象に）
12	社会とスポーツの変化と教育（2）	体育科教育からスポーツ教育へ（スポーツ先進諸国を対象に）
13	運動部の地域移行とスポーツ教育（1）	運動部活動の地域連携・地域展開について
14	運動部の地域展開とスポーツ教育（2）講義の総括と試験	運動部活動の地域連携・地域展開とこれからのスポーツ教育
15		
16		

科目コード	G30100				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	スポーツデータサイエンス特論				担当者名	西嶋 尚彦			
配当年次	1年	配当学期	第3期第4期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

データ授業方法を適用して、プロスポーツのアナリティクスにおけるゲームパフォーマンスデータの現状とデータ分析方法をデータ資料から講義し、実践する。

<授業の到達目標>

1. スポーツ分野におけるデータサイエンスの発展と今後の展望を学修する。 2. スポーツデータの統計学的データ分析の実践力を学修する。

<授業の方法>

授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プロジェクト型学習（PBL）法を適用して、例題データの測定方法と分析方法 について探求する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習内容のキーワードを検索して、まとめる。1時間程度の予習および復習を実施する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、基本的な概念
2	ゲームデータの測定：サッカー	サッカーのプロリーグで測定される試合データ
3	ゲームデータの測定：野球	野球のプロリーグで測定される試合データ
4	ゲームデータの測定：バスケットボール	バスケットボールのプロリーグで測定される試合データ
5	測定で用いる尺度特性	測定の単位と尺度特性
6	データ分析のプログラミング	統計学的データ分析の方法
7	分散分析	原因を調べるデータ分析
8	相関分析	変数間の関係性を調べるデータ分析
9	回帰分析	因果関係を推定するデータ分析
10	構造方程式モデリング	因果構造モデルを検証するデータ分析
11	項目反応理論	達成度評価のテスト理論のデータ分析
12	機械学習のプログラミング	機械学習のデータ分析方法
13	決定木分析	重なる原因を調べるデータ分析
14	ニューラルネットワーク分析	棚見込みニューラルネットワークでデータ分析
15		
16		

科目コード	G30105				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	コーチング学特論Ⅰ（個人種目）				担当者名	佐野 淳			
配当年次	1年	配当学期	第3, 4 クオーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

スポーツの現場において指導者がどのような役割を果たしているか、その不可欠な促発コーチングに関する基本的な考え方および基礎理論について、勝敗の決定方式による競技種目の分類（測定、評定、判定）を踏まえた上で、とくに個人種目の観点から概説する。

<授業の到達目標>

1. スポーツの運動現場の具体的問題について理解する。 2. 人数や競技性の観点から分類されるスポーツ種目（とくに個人種目）の競技特性を理解できる。 3. コーチング上、重要なポイントを実践現場の視点から理解できるようになる。

<授業の方法>

基本的に、講義形式をとる。なお、学生には毎時、授業内容の骨子を記した資料を配布して授業を進める。また、毎時、次回までに考えてくる内容を伝え、その内容を次時に提出させるようにさせ、講義内容の理解の効果を上げるようにする。ICTを必要に応じて活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

とくになし。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に配布した資料を復習して授業に臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

マイネル（1981） スポーツ運動学、大修館書店 大修館書店
金子明友（2005）金子明友（2009） 身体知の形成上・下スポーツ運動学 明和出版
佐野 淳（2023） 基礎から学ぶ スポーツ運動学 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	「コーチング」ということの基本理解	現場における運動指導とコーチング概念
2	運動の「現場」を理解する	運動実践における「人」のバトスの状態
3	従来のスポーツ種目の分類	個人種目、集団種目、対人種目
4	勝敗決定方式による競技領域の分類	測定競技、評定競技、判定競技
5	個人種目と競技力	記録、演技、プレー
6	個人種目の競技特性1	勝敗決定の「数値」について
7	個人種目の競技特性2	動きかた、フォームの意味について
8	個人種目と技術	個人種目における技術の意味
9	個人種目における戦術	競技力の発揮の仕方と戦術の関係
10	理想フォームの追求	理想像の設定とその考え方
11	練習の方法の特徴	技術トレーニング、内観的反復練習
12	促発コーチングの方法1	課題の与え方、評価の仕方、運動表象の形成のさせ方
13	促発コーチングの方法2	借問の方法、代行（潜勢自己運動）
14	（総括）コーチングの本質	コーチング（個人種目）実践の姿勢と基本的な考え方のまとめ
15		
16		

科目コード	G40101				区 分	スポーツ科学研究コア			
授業科目名	スポーツ科学研究演習Ⅱ				担当者名	真田 久／友添 秀則／佐野 淳／浅井 武／西嶋 尚彦／吉岡 利貢／宮本 彩／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	3期、4期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文献収集および文献読みとその内容に関する討議、および、実地調査や実験データ等に関する討議を行う。研究課題を設定し、資料やデータを収集するとともに、それらを分析する能力を涵養する。具体的には、研究倫理を理解するとともに、学術論文作成のための研究課題を考える能力を修得すること、中間発表できるプレゼンテーション能力などを涵養する。

<授業の到達目標>

1. 研究倫理を理解するとともに、文献収集および文献読みとその内容に関して討議できるようになる。2. 研究課題を設定し、資料やデータを収集するとともに、それらを分析する能力を修得する。3. 修士論文および特定課題研究作成のための研究課題を考える能力を修得する。

<授業の方法>

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生が調べてきたことを発表してディスカッションするという形式のアクティブラーニングとする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に予習して発表することをまとめておく。授業後には必ず復習して、自身の研究に生かしていく。合わせて3～4時間程度になる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2. 社会におけるスポーツの諸課題に対して、スポーツ科学に立脚した論理的思考により分析し、その解決法を的確に見出すことのできる能力と発信力を修得していること、及びDP3. スポーツ科学研究を基軸とした倫理観、責任感を持ち、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮して未来社会に貢献する意志と実践力を修得していることに該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的と方法について説明し、受講生が主体的に調べてまわってきたことを発表する形式で進めることを説明する。また研究倫理について解説し、研究上の不正などが起こらないようにすることを心構えとして確認する。
2	アカデミック・ライティング	アカデミック・ライティング、論文の構成について、どのように考えていくかについて、先行研究の例を踏まえてディスカッションしながら理解する。
3	文献資料の検索方法1	先行研究・資料等の検索方法について演習形式で学修する。図書館を介しての検索やAIを活用した検索などをアクティブラーニング形式で演習する。
4	文献資料の検索方法2	先行研究・資料等の検索方法について演習形式で学修する。図書館を介しての検索やAIを活用した検索などをアクティブラーニング形式で演習する。特にAIを活用した場合には、検証と確認が必要であることを理解する。
5	文献資料の収集 1	受講生の研究テーマに関して、検索した文献の中からいくつか選択し、それらの基本的な内容と構成について解釈する。
6	文献資料の収集 2	受講生の研究テーマに関して、検索した文献の中からいくつか選択し、それらの基本的な内容と構成について解釈する。
7	先行研究の検討 1	受講生の研究テーマに関して、検索した文献の中からいくつか選択し、それらの基本的な理論と方法について解釈する。
8	先行研究の検討 2	受講生の研究テーマに関して、検索した文献の中からいくつか選択し、それらの基本的な理論と方法について解釈する。
9	先行研究の検討 3	受講生の研究テーマに関して、検索した文献の中からいくつか選択し、それらの基本的な理論と方法について解釈する。
10	調査や実験データに関する討議 1	調査資料や実験データの解析と活用について、先行研究のデータについてディスカッションしながら考察する。

11	調査や実験データに関する討議 2	調査資料や実験データの解析と活用に関して、先行研究のデータについてディスカッションしながら考察する。
12	調査や実験データに関する討議 3	調査資料や実験データの解析と活用に関して、先行研究のデータについてディスカッションしながら考察する。
13	中間発表におけるプレゼンテーション 1	中間発表におけるプレゼンテーションの方法を修得する。時間内に簡潔に要点を押さえて説明する手立てを考える。
14	中間発表におけるプレゼンテーション 2	中間発表におけるプレゼンテーションの方法を修得する。時間内に簡潔に要点を押さえて説明する手立てを考える。
15		
16		

科目コード	G40101				区 分	スポーツ科学研究演習			
授業科目名	スポーツ科学研究演習Ⅱ				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文献収集および文献読みとその内容に関する討議、および、実地調査や実験データ等に関する討議を行う。研究課題を設定し、資料やデータを収集するとともに、それらを分析する能力を涵養する。具体的には、研究倫理を理解するとともに、学術論文作成のための研究課題を考える能力を修得すること、中間発表できるプレゼンテーション能力などを涵養する。

<授業の到達目標>

1. 研究倫理を理解するとともに、文献収集および文献読みとその内容に関して討議できるようになる。2. 研究課題を設定し、資料やデータを収集するとともに、それらを分析する能力を修得する。3. 修士論文および特定課題研究作成のための研究課題を考える能力を修得する。

<授業の方法>

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れる。具体的には、修士論文または特定課題研究に向けた問題意識の明確化を目的として、文献抄読に基づく発表およびディスカッションを中心に授業を展開する。学生は、スポーツ科学に関する先行研究を精読し、その内容や課題について整理・発表を行うとともに、他の学生との討議を通して多角的な視点から研究課題を検討する。また、研究計画の立案やアカデミック・ライティングに関する課題に取り組み、教員および学生同士のフィードバックを受けながら内容の改善を図る。これらの活動を通して、主

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計180分以上の学習を行うことを想定する。予習としては、自身の研究テーマに関連する先行研究の収集および精読、研究課題の整理、発表資料の作成等を行うこと。復習としては、授業内でのディスカッションや指導内容を踏まえ、研究計画の見直しや修正を行うとともに、追加の文献調査やアカデミック・ライティングの推敲を行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法、研究倫理
2	アカデミック・ライティング	アカデミック・ライティング、論文の構成について理解する
3	文献資料の検索方法1	先行研究・資料等の検索方法について演習
4	文献資料の検索方法2	先行研究・資料等の検索方法について演習
5	文献資料の収集1	基本的な理論と方法について収集する
6	文献資料の収集2	基本的な理論と方法について収集する
7	先行研究の検討1	先行研究の目的・課題・方法について読解し討議する
8	先行研究の検討2	先行研究の目的・課題・方法について読解し討議する
9	先行研究の検討3	先行研究の目的・課題・方法について読解し討議する
10	調査や実験データに関する討議1	調査資料や実験データの解析と活用について討議する
11	調査や実験データに関する討議2	調査資料や実験データの解析と活用について討議する
12	調査や実験データに関する討議3	調査資料や実験データの解析と活用について討議する
13	中間発表におけるプレゼンテーション1	中間発表におけるプレゼンテーションの方法を修得する
14	中間発表におけるプレゼンテーション2	中間発表におけるプレゼンテーションの方法を修得する
15		
16		

科目コード	G30102				区 分	スポーツ科学・実践応用領域			
授業科目名	アダプテッドスポーツ学特論				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

全ての人々が運動やスポーツを楽しむ権利について、障がい者スポーツを例に考えていく。その中で、ルールや用具をその人の障害の種類や程度、健康状態や身体機能のレベルに適合（adapt）させることによって保障するアダプテッド・スポーツの意義と考え方について概説する。また、適切な実態把握に努め、社会的背景や課題も踏まえた中で実践に結びつける方法を探求する。

<授業の到達目標>

障がい者スポーツの意義や理念を理解するとともに、アダプテッド・スポーツの概念とその意義について説明できる。障がい者スポーツの現状と、それを取り巻く問題・課題について理解し、アダプテッド・スポーツの今後の可能性について考えることができる。アダプテッド・スポーツの重要性を理解し、実践（実施）することができる。

<授業の方法>

テーマについて講義を行う。その後、講義内容を踏まえ、受講者自身での文献調査やグループワーク（グループ討議）を行い、成果発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり受講生個々が調べた内容についてプレゼンテーションをするなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

基本的に予習として事前課題を課す。詳細な内容は授業内にて説明する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業を通して、DP1スポーツ科学の立場から、スポーツの文化的・教育的な価値に関する知識と態度を培う。また、DP2社会におけるスポーツの諸課題の1つとして障がい者を含めた”多様性”への対応についての解決法を模索する。このことは、DP3スポーツ科学研究における倫理観の醸成に寄与する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 10%、課題提出 50%、最終レポート20%の割合で、評価を行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス障がい者スポーツの意義と理念	授業の目的と進め方について説明を行う。障がい者スポーツの意義について受講者自身の考えを共有しながら、理念の重要性を学ぶ。
2	パラリンピックの歴史、目的及び意義	グループワークを基にパラリンピックの歴史や目的及び意義を学び、時代ごとの社会背景なども踏まえてその位置づけについて議論する。
3	パラリンピックの実施競技の探求①	パラリンピックで実施されている競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。①では車椅子競技について調べる。
4	パラリンピックの実施競技の探求②	パラリンピックで実施されている競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。②では車椅子競技以外について調べる。
5	障がい者スポーツの実態 ①文献調査	国内外の障がい者スポーツの実態を受講者各自が文献等から調査する。
6	障がい者スポーツの実態 ②報告	文献調査から明らかになったことを報告する。
7	障がい者スポーツの実態 ③課題抽出	文献調査ならびに報告から見えてきた国内における課題を抽出する。
8	障害者スポーツと関連施策	国内における障がい者スポーツの関連施策の変遷について学ぶ。
9	アダプテッドスポーツの概念	アダプテッドスポーツの概念について学ぶ。
10	アダプテッドスポーツについての探求	アダプテッドスポーツの概念の意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。
11	アダプテッドスポーツのプログラム企画	受講生は数名ごとのグループに分かれ、アダプテッドスポーツの概念を基にしたプログラムを企画する。
12	アダプテッドスポーツの実践①	各グループが企画したアダプテッドスポーツのプログラムを実践する。
13	アダプテッドスポーツの実践②	各グループが企画したアダプテッドスポーツのプログラムを実践する。
14	まとめ	本授業を通して学んだことについてレポートする。
15		
16		

科目コード	G40102				区 分	スポーツ科学研究コア			
授業科目名	スポーツ科学研究演習Ⅲ				担当者名	真田 久／友添 秀則／佐野 淳／浅井 武／西嶋 尚彦／吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	1期、2期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

収集した資料、実験や調査によるデータを分析し、研究課題を発展的に修正できる能力を涵養する。スポーツ科学研究に関する修士論文または特定課題研究の作成に向けて、全体の構成・内容に関する発表・討議を行い、研究計画書を作成できる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. 研究倫理を理解するとともに、学術論文作成のための研究課題を修得する。 2. 資料の収集、実験や調査によるデータを収集し、その分析方法を修得する。 3. 修士論文および特定課題研究の中間発表のためのプレゼンテーション能力を高める。

<授業の方法>

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生が調べてきた内容を発表し、それについてディスカッションしながら、時に内容を修正しながら進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

課題について発表できる形でまとめてくるとともに、授業後には自身の研究論文に生かしていくようにする。3～4時間を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2. 社会におけるスポーツの諸課題に対して、スポーツ科学に立脚した論理的思考により分析し、その解決法を的確に見出すことのできる能力と発信力を修得していること、及びDP3. スポーツ科学研究を基軸とした倫理観、責任感を持ち、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮して未来社会に貢献する意志と実践力を修得していることに該当する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。

<教科書>

必要な資料を毎時間配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、方法について説明する。また研究倫理について、具体的な例をあげて研究不正とその処罰について確認するとともに、倫理意識を涵養する。
2	修士論文の構成 1	修士論文（または特定課題研究 以下同じ）の構成のうち、章立てや緒言の内容について構想する。
3	修士論文の構成 2	修士論文の構成について、章立てや緒言の内容などを、先行研究を参考にしながら構想する。
4	研究課題の検討 1	修士論文の研究課題と方法について、先行研究を参考にし、ディスカッションしながら構想する。
5	研究課題の検討 2	修士論文の研究課題と方法について、先行研究を参考にし、ディスカッションしながら構想する。
6	研究課題の検討 3	修士論文の研究課題と方法について、先行研究を参考にし、ディスカッションしながら構想する。
7	研究目的の設定	研究論文の研究目的について、先行研究を踏まえながら、ディスカッションしながら構想する。
8	資料、データの収集 1	研究課題を解決するための演習として、具体的な資料やデータを収集する作業を行う。
9	資料、データの収集 2	研究課題を解決するための演習として、具体的な資料やデータを収集する作業を行う。
10	資料、データの収集 3	研究課題を解決するための演習として、具体的な資料やデータを収集する作業を行う。
11	資料、データの分析 1	収集した資料やデータについて分析し、その結果について考察を加える。
12	資料、データの分析 2	収集した資料やデータについて分析し、その結果について考察を加える。
13	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションの具体的な内容（目的、方法、結果と考察）について構想する。
14	プレゼンテーション 2	プレゼンテーションの具体的な内容（目的、方法、結果と考察）について作成する。
15		
16		